令和7年度　飯塚市事務事業評価シート

令和　8　年　5　月　29　日　作成

事務事業名	消防団運営事務	事務事業No.	621 - 1

1．基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
総務部	防災安全課	消防安全係	主査	利光　良平	課長	吉原　寿

施策体系				
総合計画	政　策	6	都市基盤・生活基盤
	施　策	2	消防・救急体制の充実
	基本事業	1	消防機関との連携強化
その他の計画	個別計画		消防組織法第18条第1項

根拠法令・条例・要綱等	消防組織法第18条第1項				
事業開始年度	把握していない	事業終了年度	―	事務事業類型	義務的事業（市に裁量の余地があるもの）
実施手法	全部直営	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	―

2．事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要	日常は生業に励む傍ら消防防災活動に従事する消防団員へ報酬・費用弁償を支給し、消防団活動に必要な装備・詰所・車両等を整備・維持管理するとともに広域の消防団の連携を強化することにより消防団運営の円滑化と活動体制の充実を図るもの。
対象　働きかける相手・もの	消防団 消防団員
手段　方法・働きかけ（活動指標）	幹部・方面隊会議の開催、消防団行事の実施、報酬・費用弁償の支払い 装備・詰所の維持管理
意図　対象をどのようにしたいか（成果指標）	消防団運営の円滑化及び活動体制の確保 消防団員の消防防災に対する認識及び技術を向上させ、地域防災力の維持向上を図る

3．活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
消防団事業実施回数	回	幹部・方面隊会議、夜警、出初式	19	19	20
消防車両述べ点検台数 【車両保有台数：43台】	回	法定・定期・ポンプ点検の延べ点検台数（22台・62台・34台）	115	115	115

4．成果指標（決算成果説明書と連動）

指標	火災・災害出動回数（R8.3.31時点）	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		回	出動命令回数	目標値	15	15	15
説明	出動命令が出た火災・災害に対する出動回数	方向性	達成目標年度	実　績	17	14	
		維持	毎年度				

指標	消防団員定員数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		人	1286	目標値	1286	1286	1286
説明	消防団員実員数（R8.3.31時点）	方向性	達成目標年度	実　績	928	899	
		増加	令和10年度				

指標	消防団協力事業所総数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		件	6	目標値	25	20	
説明	消防団協力事業所総数（R8.3.31時点）	方向性	達成目標年度	実　績	18	24	
		増加	毎年度				

5．事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

経費区分	一般会計	経常経費	特別会計	―
予算科目・事業	会計 1 一般会計	款 9 消防費	項 1 消防費	目 2 非常備消防費
	大 2 消防団運営事業費	中 1 消防団運営費		他 2 事業

	(R2以降)	前年度実績（千円）			本年度実績（千円）			増減理由（10%以上の場合）	次年度予算（千円）		
投入人員（当該事務事業に対して1年間に投入した人員）	正職員	1.27	人	10,343	1.26	人	10,699		1.32	人	11,209
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級パート	0.25	人	658	0.25	人	730		0.35	人	1,022
	会計年度 2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
人件費計（A）				11,001			11,429				12,231
事業費	直接事業費（B）			121,190			132,793				143,293
	総事業費（A＋B）			132,191			144,222				155,524
直接事業費のうちの主な歳出内訳	報酬			52,971			51,585				61,960
	負担金補助及び交付金			35,405			34,510				34,916
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）			0			0				0
	国・県支出金			0			0				0
	市債			0			0				0
	一般財源			132,191			144,222				155,524
	その他（　　）										

6．事務事業の事後評価★

評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性評価	高い	飯塚市消防団の組織等に関する規則第3条2項に基づき、消防団の運営に関することは、消防団本部が行う必要があるため。また、飯塚市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例第12条及び第13条に基づき、団員に対して報酬及び費用弁償を支払う必要があるため。
効率性評価	高い	飯塚市消防団の組織等に関する規則第3条2項に基づき、消防団運営と活動体制を確保するために必要な事業を行っているため。
有効性評価	やや高い	事業を実施することで、消防団の活動体制が確保され、今年度起こった各火災や災害に迅速及び適切に対応することができた。

7．前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	消防団を増加させるため、イベント及び多様な広報媒体を活用し、広報活動を実施する。
一次評価	拡充		
	コストの方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	真に必要とする消防団装備の充実に向けた協議等
	拡充		

前年度改善策に対する実績　★　　※上記の改善策に対して今年度に実施できたこと、などを記入

女性分団による広報活動を積極的に実施した。また、操法大会に関する記事を西日本新聞に取り上げてもらい消防団の啓発活動に繋がった。団員から要望のあった被服・装備をその都度更新していった。

8．今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

【成果】　消防団事業を計画とおり全て実施したことで組織力強化に繋がった。消防団員及び消防団協力事業所数が年度初めより増加した。

【課題】　毎年減少傾向にある消防団員の確保を引き続き行っていく必要がある。

9.今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	【理由】
拡充	引き続き消防団員の処遇改善を推進することにより、消防団活動の円滑化につながるため。
コスト投入の方向性	【理由】
拡充	消防庁の指針に基づき消防団の処遇改選（年額報酬の増額・出動報酬の新設等）を推進しているが、実際に各分団を運営するために必要である消防団運営交付金の拡充に向けて検討をすすめるため。

次年度以降の改善策（課題解決や改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	消防団を増加させるため、イベント及び多様な広報媒体を活用し、広報活動を実施する。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	団と協議し、装備の充実化に向けた計画策定を行うとともに装備を配付し、消防力の維持・強化を図る。

2次評価（最終評価）		
	成果の方向性	団員のスキルアップに繋がることから操法大会へ出場することの一定の必要性はあると考えられる。しかしながら、大会出場の規模と比較し補助金額が過大であると思慮する。一方で、消防団員の成り手不足の課題もあることから、消防団運営事業の在り方の見直しも含め、団員の負担軽減策を検討する必要があると考える。
	縮小	
	コスト投入の方向性	操法大会出場の規模と比較し補助金額が過大であると思慮する。当該事業に対し、今後補助金を支出するのであれば、補助対象となる経費を精査し、適切な補助対象経費のみに必要な額を支出する必要がある。この点について、十分に改善の余地があると考えられることから、コスト投入の方向性については縮小とする。
	縮小	